

基幹センター地域支援課活動報告

基幹センター地域支援課（以下、当課）の2024年度の東日本大震災による被災地域での活動は、以下の通りであった。

【地域住民支援事業】

1. 地域住民交流事業 うつくしまサロン

福島県から東日本大震災を契機として宮城県仙南地域に転居された方を対象とした「うつくしまサロン」を実施した。福島県内の状況や転居先の情報交換、同郷の仲間同士の交流の場として月1回の実施を継続した。当センターの活動終了に伴い、2024年度でサロンは活動を終える予定であったが引き継ぎ先が見つかり、打合せを重ねて調整を行った。2024年度は、当課が担う最後の年となるため、引き継ぎ先の担当者と共に参加者に寄り添いながら実施した。

2024年度の活動実績を表1に示す。

表1 地域住民交流事業（うつくしまサロン）

開催地	実施日	内 容	参加者
岩沼市	2024/4/12	防犯講座	9名
	2024/5/17	昼食会 in グリーンピア岩沼	10名
	2024/6/21	絵手紙教室	10名
	2024/7/19	仙台傾聴の会による音楽カフェ	12名
	2024/9/13	浪江やきそば作り	11名
	2024/10/11	グラウンド・ゴルフ体験	9名
	2024/11/8	ミニかご作り	10名
	2024/12/13	コーヒー教室	14名
	2025/1/17	お坊さんとお話会	14名
	2025/2/14	お着物を着よう会	9名
	2025/3/14	ランチパーティー	13名

※1時間30分～2時間程度の開催



絵手紙教室



お着物を着よう会

【支援者支援事業】

1. 子どものこころのケア支援者に対する支援

災害時における心理的支援の基本的方法を示した「子どものための心理的応急処置研修(以下、子どもPFA研修)」を表2の通り実施した。

2025年度以降は、宮城県子ども総合センターが実施する。

表2 子どものための心理的応急処置研修（子どもPFA研修）

開催地	実施日	研修内容	対象・参加者	参加人数
仙台市	2024/5/30	研修会講師として携わる指導者に対し、指導技術と知識を深める。講義、演習（ロールプレイ、グループワーク）	指導者育成研修受講者	4名
WEB配信	2024/6/27	紹介研修（オンライン）：危機的状況で子どもが一般的に示す反応を学び、PFAの行動原則やストレスを抱えた子どもとのコミュニケーションの取り方など、子どものためのPFAの基本を学ぶ。 講義「子どものためのPFAとは」「危機的状況にいる子どもが示す反応について」		43名
大崎市	2024/7/28	1日研修（第1回）：危機的状況で子どもが一般的に示す反応を学び、PFAの行動原則やストレスを抱えた子どもとのコミュニケーションの取り方など、ロールプレイを交えながら習得する。 講義「子どものためのPFAとは」「危機的状況にいる子どもが示す反応について」 演習（ロールプレイ、グループワーク）	教育関係者（養護教諭、保育士、幼稚園教諭）・保健師、児童相談所職員ほか	22名
仙台市	2024/8/22	1日研修（第2回）：第1回に同じ		23名
仙台市	2024/11/7	1日研修（第3回）：第1回に同じ		18名
仙台市	2025/1/23	過去に1日研修を受講された方に対し、援助技術と知識のブラッシュアップを図る。 講義「日常の支援における子どもの心のケア」 演習（ロールプレイ、グループワーク）	1日研修修了者	18名



1日研修 講義



1日研修 ロールプレイ

2. 「東日本大震災後に誕生した子どもと家庭への縦断的支援研究」（以下、みちのくこどもコホート）

震災直後に出生した子どもたちに経年的に関わり、子どもと家庭の変容評価を行うことで、効果的な支援の明確化を図った。今後発生する災害などにおける支援者活動の一助とすることを目的に、2016年度から行っている「みちのくこどもコホート」を2024年度も実施した。

2025年度以降は、東北医科薬科大学医学部精神科学教室にて実施する。

【普及啓発事業】

1. 年間活動報告書作成事業

令和5年度年間活動報告書（紀要通巻第12号）を作成し、関係機関に配布した（1,000部作成、823カ所配布）。あわせて、英語版を作成し、ホームページに掲載した。

2. メンタルヘルス情報の発信

（1）ホームページ・メールマガジンによる情報発信

当センターの活動紹介、広報紙バックナンバー掲載、各種パンフレット閲覧、研修案内など、適宜更新を行い、情報発信を行った。

（2）リーフレットなどの作成・配布

子どもPFA研修の際、啓発グッズを配布した。

（3）各種取材などへの対応

報道機関や学生など、東日本大震災関連の取材・研究に対応した。

3. センター活動に伴う調査研究（学会発表については事業項目別活動報告を参照）

2024年度は集積した知見を広く普及するための作業を進めた。

【その他】

1. 業務統計データ管理

業務統計システムおよび個別支援システムを継続運用した。国や県への報告、各種会議での報告および経年変化などの活動分析を行った。

2. 職員研修

運営の方向性などの確認・情報共有の場として、原則職員全員が参加し、全体ミーティングを年2回実施した。

また、個々の職員に応じたスキルや知識の習得を目的に、推奨研修として外部研修の受講を促した。

3. 石川こころのケアセンターとの情報交換

石川県では令和6年能登半島地震による被災の後、9月に令和6年奥能登豪雨による災害が重なった。10月に、石川こころのケアセンターの支援活動の現状を伺い、東日本大震災時の当センターの活動への問いかけに応える形で、webにて情報交換を行った。

【まとめ・今後の展望と課題】

2024年度は、2025年度の当センターの閉所に向けて、これまで継続してきた事業を終了させること、また外部への事業の引継ぎを中心に取り組んだ。また、これまでの活動により集積された知見を、次の大規模災害後の心のケアに役立てるための伝承作業を行っており、2025年度から広くインターネットにてアクセスしてもらえるよう準備を進めている。

2025年度は当センターの活動の最終年度である。最後まで使命を全うし、その役割を終えていきたいと考える。